



日本共産党杉並区議会議員

週刊

こんにちは

こうへい  
**山田耕平**  
です

2025.9.11 No.540

このニュースへのご感想  
ご意見をお寄せください！

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

<http://yamadakohei.jp>

右QRコードを  
ご活用下さい



## 第3回定例会が開会 杉並区の物価高騰対策が前進 福祉施設に食材費・光熱費等を助成

### 補正予算（第3号）の概要 一部

- 介護サービス事業所（615所）へ食材費・光熱費の一部を助成

6406万2千円

短期入所 76所 通所 150所

- 給食等を提供する障害者通所施設（60所）へ食材費の一部を補助

972万6千円

- 介護現場の負担軽減と質の向上

2200万円

居宅介護事業所と居宅サービス事業所がケアプランのやり取りをオンラインで完結できる「ケアプラン連携システム」を導入。業務の効率化により職員の負担軽減につなげる。

- 高齢者のスマートフォン購入助成

1883万1千円

- ・ 補助上限 3万円（一人につき一台まで）
- ・ 対象人数 600人（初めて購入される方など）
- ・ 申請開始 令和7年11月10日予定

※予算に達し次第終了

- 児童養護施設退所者等応援基金の設置

1019万3千円

令和6年4月から開始した、ふるさと納税による寄付金を活用した「児童養護施設退所者等への支援事業」について、新たに基金を設置し、子どもたちの自立に向けて様々な支援を検討する。



9月2日の記者会見で補正予算等を説明する岸本聡子区長（右）。記者会見や補正予算に関する区HPは左QRコードから。



### 物価高騰に直面する 杉並区内の事業者を支援

9月9日（火）から杉並区議会第3回定例会が始まりました。今定例会に提案される補正予算（3号）の概要が示されました。一部を紹介します。

物価高騰対策として、都が実施する支援の対象外である杉並区内の介護サービス事業所に対し、区独自に4～9月分の食費及び光熱費等の一部を補助する経費が計上されました。財源は、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用します。

### 高齢者のスマホ購入を支援

日本共産党杉並区議団は、人手不足や介護報酬の引き下げによって介護の現場がひっ迫するか、区独自の支援を実施することを求めています。今定例会の補正予算に、その経費が盛り込まれたことは重要です。

高齢者のデジタルデバインド（情報格差）解消および健康アプリ（今年10月導入予定）を含む、杉並区の行政デジタルサービスの利用促進を図るため、高齢者を対象にスマートフォン購入費用を助成します。

9月24日の総務財政委員会で審議されます。

第3回定例会 9月9日（火）に一般質問しました。※詳細裏面  
テーマ：都市計画道路、外環道、水害対策と善福寺川上流調節池

# 第3回定例会で一般質問 喪失する地域資源の調査研究も 道路整備ありきでない「まちづくり」へ

答弁に立つ岸本聡子区長。



これらは「区民生活にとってかけがえのない地域資源」との認識を示し「未来に引き継いでいくことは、まちづくりにおいて非常に重要である」と答弁しました。

杉並区では、都市計画道路の検討に向けて、区独自に都市計画道路整備に関する効果検証を実施しました。検証では、道路整備の効果に焦点が当てられる一方、道路整備により喪失する歴史や文化、商店街の魅力や賑わい、街並みなどは、評価対象となっていない。 (週刊ニュース534号)

一般質問では、これら地域資源への区長の認識を確認し、必要性を評価すべきと質しました。区長は「杉並区は商店街の魅力や賑わい、街並み、歴史や文化など地域の様々な特徴や要素が集まって形づくられている」と答弁。



現在、東京都は、今後15年間で優先整備路線とする都市計画道路の検討を進めています。これは住民生活に直結する重大な方針となります。

## 商店街の魅力や賑わい等 かけがえのない地域資源

9月9日、第3回定例会初日に一般質問しました。都市計画道路、外環道、水害対策と善福寺川上流調節池について取り上げました。これらの課題は、区政運営上、大きな課題となっている点であり、区が真摯に住民との協議を尽くし、計画見直しも含めた対応を検討することを求めました。

## 外環 速やかな情報提供求める 通常掘進と異なる状況の発生時に

外環道について杉並区へのシールドマシン到達を前に、掘進速度が大幅に低下(4月17日から6月6日までの60日間で24メートル)、これまで通りに進まなくなる事象が発生しました。(週刊ニュース534号、537号に詳細)

この要因は、シールドマシンのカッタービットが粘性土の固着による影響を受け、シールドマシンのカッタートルク(回転力)が徐々に上昇したことに伴い、地上への影響を発生させないために掘進速度を低減したとしています。

一方、事業者が発注者である国土交通省も含め、本年4月頃に「緊急対策チーム」を構築していたのにも関わらず、その情報を自治体やトンネル施工等検討委員会に対して3カ月以上、報告しなかったことが明らかとなりました。この間、事業者だけの判断で様々な事象への対応を決めていることとなります。問題を過小評価しかねない姿勢は、調布市での陥没事故や地下空洞を生じさせることにもつながっており重大な問題があります。

一般質問で、基礎自治体として改善を求めるよう質したところ、区は「通常の掘進と異なる状況が発生した際に、速やかに区と住民に情報提供を求める」と答弁しました。

**専門的調査研究の提案には「応えられるよう準備する」**  
区長は、これら地域資源について区民同士の議論や行政が聞き取る場が無かったとし「対話の場」をつくることに力を入れており、その一つが(仮称)デザイン会議、と答弁。「デザイン会議の話し合いの中で(地域資源に関する)専門的な調査研究が提案されれば、それに応えられるよう準備する」と答弁しました。  
都市計画道路整備を前提とするのではなく、住民と共に地域資源を生かしたまちづくりを検討することは、重要な取り組みです。

8月26日、日本共産党の山添拓参院議員、原田あきら都議と共に、外環道工事について、国土交通省、高速道路会社の担当者から聞き取りを行ないました。関係区市議、沿線住民も参加しました。この聞き取りの中で、適切な情報提供等が行なわれていないことが明らかになりました。



水害対策と善福寺川上流地下調節池に関する質問内容は区議団ホームページをご覧ください。